



第154号 編集発行 愛知学院大学 事務局 庶務課 470-0195 日進市岩崎町 良島12 電話 (0561)73-1111(代)

努力、精進の人生を

学院長 小出 忠孝

平成18年度 学位記授与式

平成十八年度愛知学院大学卒業生諸君、卒業おめでとう。本学を代表して心よりお祝い申し上げます。諸君の胸の中には四年間の蜜雪の功成り、学位記を手にする事が出来る喜びと共に、これから始まる新しい人生に対する希望に満ち溢れていることと思います。

学院大卒業の誇り

新しい人生の門出にあたり、諸君に先ず学院大卒業の誇りを持って頂きたい。諸君が学んだ愛知学院は昨年創立一三〇周年を迎えた中部で最も古い歴史と伝統を持つ学園で、大学は八学部十六学科、大学院八研究科に学生一万一千名を擁する大規模な私立の総合大学です。本学では昨年六年制薬学部と三年制短大歯科衛

生学科を、今春グローバル英語科、ビジネス情報学科、現代企業学を増設し、時代のニーズに積極的に対応する中部の主要大学となっています。諸君はこの様な名門愛知学院大学で、多くの優秀な先生に恵まれ学業を修め、また多くの先輩・後輩に囲まれ人間形成に努める事が出来ました。さらに諸君には社会の各界でめざましい活躍を遂げている十万余名の先輩がいます。すべて本学の建学の精神「行学一体・報恩感謝」の教育理念のもとで、誇り高く育った学院生です。この建学の精神は宗祖道元禪師の教えであり、人間として正しく生きていく上で、最も大切な基本的精神です。本学で学んだ諸

君は一生この建学の精神を座右の銘として堅持し、社会で活躍される事を希望します。諸君が明日から門出を迎える社会・経済等すべての面で新しい時代の訪れが期待されています。しかし国際社会では北朝鮮の核問題を初めイラク、パレスチナ等における宗教・民族・経済に根ざした紛争や対立が国際平和を脅かし、また地球環境、食糧、人口、難民など地球規模の問題も深刻化しています。この様な国際状況の下、わが国を取巻く環境にも立場にも大きな変化を来し、わが国に従来の国際貢献から歩を進め、世界の安定と発展のため積極的に行動するよう要請されています。

戦後最長の景気拡大

一方わが国経済は長期続いた不況のトンネルから抜け出し、輸出や設備投資の増加等により持続的な景気拡大への歩みを進め、昨年11月には戦後最長の「いざなぎ景気」を超え、現在なお回復基調を維持中です。日銀総裁も「景気は緩やかに拡大しており、先行きも息の長い成長が続く可能性が高い」との見方を示しています。政府も日本経済の進路について、GDP成長率の見通しを上方に修正し、実

文科省私大研究高度化推進委員会 委員長に小出学長再任される。

文科省の私大研究高度化推進事業は、私大の研究機能の高度化のため、卓越した研究組織をハイテクリサーチセンター等として重点的に高額予算を配分するもので、小出学長は委員長(医歯系小委員会主任委員)に再任された。プロジェクト選定、予算配分等その責任は極めて大きい。

大半は大学教育を受けていません。これからは大学卒の諸君が活躍の中心となる時代です。その中でも本学で学ばれた諸君は、社会の変化に的確に対応できる基礎学力に身をつけており、今後如何にその変化に対応するかの努力に大きな期待がかかっています。

99%の汗と努力

発明王エジソンは「天才」について、「天才とは99%のPerseverance(発汗と、1%のInspiration(靈感)によってできるところである」と述べています。天才とは単に閃きかと思いつきがすぐれているのではなく、普段の汗と努力の結晶である、努力の大切さを強調しています。何事も日々の弛まぬ努力が肝要で、成功の基本である事を教えてください。わが国は第二次大戦の廃虚から立ち上り、先人の涙ぐましい努力により今日の経済大国を築き上げてきました。わ

知識基盤社会

諸君がこれから進む廿一世紀の社会は知識基盤社会と言われ、あらゆる活動が知識や情報を直接的に基盤とする社会となります。さらにグローバル化、情報化、少子高齢化、高学歴化等を背景に、社会構造に大きな変化を来しており、またその変化の速度も早くなっています。これからの「知の時代」では大学教育をうけた優れた人材が必要であり、またその人が中心となって社会をリードしていかなければなりません。わが国では大学のユニバーサル化により、大学卒業生は非常に多くなっています。同世代の未だ45%にすぎず、



「始まりの始まり」 大学後援会会長 尾関章司

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。小出学長をはじめとする各学部長、教職員は先生方に学生の家族を代表して厚く御礼申し上げます。又御父母の皆様には後援会活動に対しまして深いご理解とご協力を感謝申し上げます。卒業されますご子息に誕生以来の数々のシーンを重ね合わせて感慨も入る、ことと存知あげます。さて、ここからの始まりです。卒業は社会人のスタートです。世の中



練達が希望を生む 夢、希望に日付を 加藤勇夫 愛知学院大学 同窓会連絡協議会 議長 商経会 会長

では「二つの世界」が衝突していると思います。一つは企業の経営戦略や米国の外交政策に見られる「競争と闘争の世界、力の世界」で、もう一つは家族の絆や友情などの「信頼や優しさの世界」です。世の中から競争や闘争がなくならないのは歴史上の事実です。皆さん方の多くも社会の中で、企業の中で競争と力の世界に生きる事になるでしょう。この社会は力ずくでは動かない感情の世界(信頼や優しさの世界)です。この力と信頼の世界を上手に調和させ補完しなくてはなりません。本学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」を在学中に学び会得された皆さんは高校生までの自分とは違う自分、これまでの自分とは一味違う人間になりました。人間は無

学となるかどうかは、これから進む社会での努力によって真価が問われるところです。人生は、生涯かけて自己研鑽を積み、修練に励む場です。わが国社会は、急速でドラスティックな変革の時代を進んでいます。皆さんは、希望と不安を胸に交ぜながら、こうした社会に入っていくわけですが、学生から社会人への大きな節目は、自らを大きく飛躍させる絶好のチャンスです。成長するに絶えず努力を続けることです。社会は、学生時代とは異なって、自分と他人の中心がずれる異心円の世界です。自分の実力の真価が問われます。他人との競争よりも、まず自分の決意とたたかいて勝ち、存在感のある人間に成長して欲しいのです。皆さんの持つ純粋な英知、新鮮な発想、無限の

可能性に大いに期待しています。「恭儉己を持す」と言います。決して順境に驕らず、自信の中に絶えず謙虚さをもつて、積極的に多くのことを学んで、身につけて下さい。皆さんには、心身の健康に留意され、決して小さな打算に固執せず、学生時代以上に高く、遠くを望んで、知的好奇心、他人への優しい思いやりを持ち続け、見事な人生を築かれることを願っています。本学を卒業し、全国的に幅広く活躍する一〇三〇〇名の同窓生は、皆さんの社会での活躍をいつも温かく見守っています。どうか、母校、ゼミナール、クラブ・サークルなどを心のふるさととし、いままでも以上に母校愛、同窓意識を深めて、社会で活躍されますようお祈りします。



進路について、GDP成長率の見通しを上方に修正し、実

卒業生は非常に多くなっています。同世代の未だ45%にすぎず、

意を表します。小学校以来蜜雪十六年もの歳月をかけて学んだ知識が実

卒業生へ贈る言葉 (平成18年度)

「ビジネスヒューマンを目指して」



高学部長 田畑康人

卒業生の皆さん、栄えある卒業を心からお祝い申し上げます。皆さんがこれから旅立つ社会、とりわけビジネス社会は、学生時代に想像していた以上に厳しく、また、アルバイトや就職活動で得た経験がほとんど役立つばかりではありません。

しかし、商学部で学んだ知識を総合し、知恵に変えることができれば、何も恐れることはありません。社会も企業も二十世紀末から続いた長期不況からようやく抜け出し、少しずつ明るさも出てきました。ただし、最近のビジネス社会を見て、最近の人間として本来あるべき倫理観や正義感が欠け、利己的な欲望に従い「利益さえ上げればいい」という風潮が目立ちます。

愛知学院は「行学一体、報恩感謝」を建学の精神として、人間形成を図ってきました。加えて、商学部では従来型の単なる「ビジネススマン」ではなく、自然や世界との共生の心を持ち、正邪の判断を常に自分に課しながらビジネスに携わる人間 (human)、すなわち「ビジネスヒューマン (Business Human)」を育てることを教育目標としてきました。そのような教育を受けた皆さんは、それを社会で実践するために前進して下さい。人間としての心と真の優しさを、そして正義感を持つたビジネスヒューマンこそが二十一世紀に必要な不可欠な人材、人財となりうるのです。今こそビジネスヒューマンを目指して果立つときです。私たち教職員はいつまでもそのような皆さんの姿を見守っています。

「知識を吸収して向上する努力を」



文学部長 黒田安雄

四年間の大学生活を終え、社会へと巣立られる卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。愛知学院大学で専門の知識を学び、幅広い教養を身につけられた皆さんは、これからは学ばれたことを社会人として社会に役立てる

目まぐるしいスピードで刷新される技術の進歩と、それに伴う社会の成熟と変化に対応していくためには、優れた価値観と不屈の強い意志が必要です。多様な文化の基礎には、様々な価値観が存在することを充分に

認識し、豊かで柔軟な感覚を養うことを心掛けて下さい。現実の社会においては、努力と成果は必ずしも比例するものではありませんが、社会のいずれの分野で活躍されるにしても、自分の仕事、自分に与えられた仕事に、真摯に取り組むこと、そのことを通じて次の飛躍をはかっていくという姿勢が大切です。そしてそのためには他者からの批判や助言にも耳を傾け、絶えず新しい知識を吸収し、向上する努力を怠らないことです。物事を自己の目の先の利害からのみ考えないで、新たな考えを謙虚に学び、常に目標に向けて努力を継続する心構えを忘れないようにして下さいと思います。日本経済にもようやく明るさが見えてきました。予期しない困難に出会うことも多いと思いますが、果敢にチャレンジして社会に貢献されることを期待して止みません。皆さんの前途が爽やかな人生であることを祈念します。

天皇誕生日祝宴に招待され 小出学長夫妻 宮中に参内

天皇誕生日である去る12月23日に皇居内の宮殿で、天皇陛下の73才の誕生日を祝う祝宴が開催された。両陛下からのお招きで小出学長夫妻には私立大学の代表として祝宴に参加する栄誉に浴した。当日、両陛下、皇太子殿下を始め、皇族方が盛装で出席され、また首相、衆参両院議長、最高裁長官、各大臣以下、衆参両院議員の代表、各界の代表が夫人同伴で出席され、陛下の誕生日を祝う盛大な祝宴であった。祝宴では最初に天皇陛下のお言葉があり、次いで安倍首相が国民を代表して祝詞を申し上げ、河野衆院議長の発声で祝盃を挙げた後、お祝の膳についた。祝宴の終りには副参院議長により、陛下の長寿を祈念して万歳三唱の後、終宴となったが、両陛下には終始にこやかに歓談され、大変ご満悦の様子と拝察された。学長は私立大学の代表として招待されたのであるが、他に吉川元東大総長夫妻、鳥居私学事業団理事長(前慶応大塾長)夫妻も大学関係者として同席された。なお、学長は平成9年1月に「講書始の儀」、13年1月に「歌会始の儀」にそれぞれ招待を受け、宮中の「松の間」に参内し陪聴の栄に浴したのであったが、正式の祝宴に招待されたのは初めてであり、大変光栄なことと感激している。また当日両陛下には午前中に3回、皇居内宮殿ベランダに立たれ大勢の一般国民の祝意を受けられた他、午後3時からは各国大使ら外交団の人々を皇居に招待され、茶会を開催される等、極めて多忙な一日であったが、陛下のご健康と長寿を心から祈念するものである。



天皇皇后陛下には去る十二月二十三日、宮中において御催しの天皇誕生日祝宴にお招きになりますので御案内申し上げます。平成十八年十二月七日 宮内庁長官 羽毛田 信吾

「青春の1ページ」



高学部長 中嶋恒彦

私は3年生の終わりから就職活動を始め、ただ何となくという気持ちで髪の毛を黒くしリクナビやエントリーを始めた。重点的に取り組んだのが自分を知る事から入り、何が強みで何が弱みという事から始めました。私はこの学校に来る前は専門学校にいたのでたくさん資格を持っています。そこを武器に履歴書やエントリーシートの作成に取り組みました。でも最大の弱みは、高校を途中で辞めたのでいざ面接になるとなぜ辞めたのかというのが一番辛かったです。最初は弱気の面接をしていたのですがどうせ入り劣っている部分が多かったの落ちてまたがたという気持ちで、強気でぞんざいでの結果がでたのだとおもいます。業種を決める際も経済活動に興味があったので物流関係の仕事につきたかったのでそこを重点的に受けに行っていました。自分としては見る所は人事対応や仕事内容の風景をよく観察していました。人生の分岐点という気持ちで、やりたい事というのは妥協をしたくありませんでした。ここだけは譲れないというポイントは妥協をしない方がいいと思います。まだ何も考えていない人は是非少しでも早く就職活動を始めた方が自分という事が知れて今後のためになると思います。「これがあるから今がある」と思えるように悔いの残さないようにして欲しいとおもいます。途中で編入学をしてきたのですが、みんな年齢に関係なく接してくれた事にすごく感謝しています。

「名古屋市(消防職)合格」



文学部長 竹村宗志

一生の仕事とするならば、人の役に立つ仕事がしたいと思い、消防官ならば利益にとらわれず、市民のために真に役立つことがやれると思ひ志望しました。また、新潟中越地震におけるレスキュー隊の活躍をみて自分も同じ仕事で働きたいと強く思うようになりました。まず、消防官を目指すにあたって、公務員講座を受講し勉強をしました。公務員試験も面接試験に力を入れるようになったと言われますが、まだまだ筆記重視の傾向があると思います。特に、私が受けたところは筆記試験でかかると人数を絞っていました。そのため筆記の対策には特に多くの時間を割きました。面接はキャリアセンターで模擬面接などの指導をしていただき対応しました。部活動を含む大学生活で得たものは、あまりにも大きく、決められた文字数に収まりきれることができません。ただ一つ言えることはこの大学に入学生して本当によかったということです。この部活動に入っていなければ、また、この大学に入っていなければ、私が消防官になることは叶わなかったと思います。それは消防官として必要な体力を得たことだけでなく、大学生活を通して人として成長できたことが大きいと思います。私は愛知学院大学で学んだおかげで、自分の希望した職業で働くことができます。この場をかりてこの大学のすべての方にお礼を言いたいです。

就職体験記

18年度	学位記授与式で送られる管	長賞、小出有三賞、学長賞の各受賞者はつぎのとおり。
【賞状賞】	宗教学科	板倉 宏顕
宗教学科	坂口 崇	
国際文化学科	溝下 小織	
日本文化学科	石野 剛	
商学科	山田 和宏	
産業情報学科	岡田 貴良	
国際経営学科	岡田 重博	
法律学科	鈴木智香	
現代社会法学科	金田 俊彦	
心理学科	大隈亜優実	
商学科	山内 彩	
歯学部	山内 麻帆	
【学長賞】	宗教学科	小松 智美
宗教学科	松林佳穂里	
国際文化学科	柳瀬 泰祐	
日本文化学科	田中奈津子	
商学科	長谷川美奈	
産業情報学科	井藤 寛道	
法律学科	初 秀梅	
経済学	宮本 昌子	
現代社会法学科	土屋 美晴	
心理学科	中島みなと	
歯学部	近藤 英仁	
【学長賞】	宗教学科	横山 未和
宗教学科	松本 智美	
国際文化学科	西川 欣吾	
日本文化学科	藤川 明徳	
商学科	加納 佳奈	
産業情報学科	濱田 幹夫	
法律学科	朱 露露	
経済学	山崎 有香	
現代社会法学科	山崎 有香	
心理学科	上野健太郎	
歯学部	森 慎太郎	
【努力賞】	法律学科	高塚 清

卒業生へ贈る言葉 (平成18年度)

「社会人として 大いに成長を」



総合政策学部長 新海英行

「卒業おめでとうございます。みなさんは言うまでもなく、ご両親やご家族の方々の喜びもさぞおとしおのこさず、愛知学院大学の四年間を振り返ると、いろいろの出来事を思い起こすことでしょう。講義やゼミをおして、このことを科学的・合理的に考

え、判断するための確かな教養(学力)を身につけることができたことを確信します。さらに、ゼミやクラブ、サークル活動では先生や友人との出会いがあった。そうした貴重な出会いの中で豊かな人間性を培うことができたに違いありません。思えば、アルバイトも実社会のきびしさを知るよい機会でした。

教養、友情、そして就労体験など、いずれもみなさんを成長させてくれたと思います。これは二年生の頃から接してきた私の実感です。とは言え

を辞めてしまう現象です。一年や二年で新しい世界の楽しさは見えません。「石の上にも三年」と言いますが、どのような世界へ果立っていったとしても、どのような業界で働くにしても、三年程度の時間が必要で、転職することがいけません。仕事は思いません。でも、仕事の楽しさを見つけてくれるようにならないうまで、そこで頑張っていたらいいと思います。

最後は、老練心ながら一言付け加えます。四月一日からはほとんどのみなさんは新入社員です。辞令交付式からはじまり、新入社員教育に入ります。そこでは、職業人としての心構え、会社のしくみ、仕事のながれなど、社員として基本的なあり方がしっかりと教え込まれます。この新入社員教育を真面目に受けられるかどうかが会社人間として職場に順調に対応できるかどうかを決める分かれ道となります。ぜひこの分かれ道で、目を大きくして、目の前の小さな課題を一つ一つ着実にやりとげることによって、やがては大きな目標を達成されることを切望します。

「マニュアルに縛られないこと」 私の場合は、男声合唱団の活動を通して得た内容や、「会計職」を務めた経験から自己PRを行い、信用金庫で働くことを志望していました。もちろん、話す内容は自分なりに考えたつもりでした。

しかし、いつの間にか面接では、履歴書に書いた内容をまる暗記したものを答えてしまったり、業界本に書いてあることをそのまま言ったりしていました。当然結果は、不合格でした。そんな折、キャリアセンターで模擬面接を受けて、わかったのが「オーソドックスな内容で、面白くない。」ということでした。そこで、キャリアセンターの方に相談のついでに、再度自己分析を試みました。

4年間の大学生活から自己PRを無理矢理探したのではなく、それまでの22年の人生で共通しているものという視点から、改めて自己PRを探しました。

私の場合は、「努力による自己成長」というテーマで自己PRを見直し、小学生の頃に覚えたコツコツとするというものから、大学生になってから男声合唱で努力したこと結び付けることで、視点を見直しました。

そのおかげで、無事就職活動を終え、第一志望の信用金庫から内定を頂くことができました。

「若々しく しなやかに」



法学部長 梅川正美

「卒業おめでとうございませ。皆さんは今、それぞれ自分の大学物語を書き上げました。これをしつかり手に持って門を出しましょう。新しい職場の一年生として迷ったとき、大学生活とのギャップに困ったとき、自分で書いた、自分だけが読めるこの物語を開きましょう

う。元気だった姿を思い出し、自信を取り戻して奮闘しましょう。それぞれの物語はちがっていても、共通しているところもあります。その第一は本学で仏教精神にふれたことです。人間社会や自然の奥から発する仏の「恩」は学問を通じて私たちの心のなかに積もっています。社会人として、さらに地球自然との循環の中にある自然体として、自分の内に輝く「恩」を大切にし、よき市民となることによって「報

恩」を実践しましょう。「報恩」を実践するためには、「報恩」を実践するべく奥深く理解しながら生活することが必要です。学生時代に身に付け始めた学問を日々の行動で深めながら「行学一体」を生涯の指針にしましょう。

第二に法学部学生はリーガル・マインドの重要性を学習しました。これまで法学部を卒業した社会の各部署で活躍している卒業生は約二万四〇〇〇名になります。先輩たちは弁護士から

一般社会人まで、ほとんどすべての職種で活躍していますが、中央政府の省庁や多くの地方自治体の役所で重要な役割を果たしています。もちろん先輩は民間企業でも金融機関をはじめあらゆる企業を支えて中部地方の経済の基幹を担っています。

皆さんも同窓生の仲間に入り、友人と同僚とよく協力し、中部のみならず日本や世界を支えるために、若々しくしなやかに活動するよう願っています。

4月から、銀行のFPとして活動することになりました。FPはお客様の人生設計をヒアリングし、お客様に合わせた資格運用プランを考える仕事です。ところで、私の内定先は金融業界ではあるのですが、実は活動業界は金融に限定的なものではありませんでした。不動産、IT、小売、人材や運営・組織コンサルなど忙しい就職活動をしていました。

というのも、私は自分のやりたいことを実現できる業界は一つではないように考えたからです。大学のゼミサークル活動から、「世の中人が将来を考えるお手伝いを、専門職の立場からサポートすること」が、私のやりたい仕事でした。

ただ、私も昨今の頃は、やりたいことがまだ言葉に出しては言えず、「志望理由」が頭の中のブラックボックスに入った状態でした。ですから、毎日選考に参加して面接で叱られながら、自分の社会貢献のスタイルや働いてみたいと思った職業について必死で調べていました。

その「やりたいこと」がはっきり説明できるようになったのは、人事面談の他に、内定者の先輩方、そして就活生同士の交流というプロセスがあったからです。自分の志望を表現してみたり、またそれを評価してもらう人間関係を、就職活動を通してつくることができた結果として、切磋琢磨の成長ができたと思っています。

だからこそ、いま就職活動をされている方には、とにかく志望先で働いている方や就活生同士で接点を持って、自分の志望を確かめてほしいと思います。就活生の皆さんが本当にやりたいことができる進路の発見ができることを祈っております。

「人生は学びながら、楽しむ道です」



経営学部長 内藤 勲

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。四年間の大学での学びを終えて、皆さんは社会へと果立って行かれます。小学校以来十六年間の学びの期間は、未来へ向かう皆さんの可能性を蓄える期間でした。そして今、社会へ果立つことで、皆さんは蓄えた可能性のつを

「七五三現象」が社会問題となつていいます。中卒の七割、高卒の五割、大卒の三割が入社三年以内に仕事を

を辞めてしまう現象です。一年や二年で新しい世界の楽しさは見えません。「石の上にも三年」と言いますが、どのような世界へ果立っていったとしても、どのような業界で働くにしても、三年程度の時間が必要で、転職することがいけません。仕事は思いません。でも、仕事の楽しさを見つけてくれるようにならないうまで、そこで頑張っていたらいいと思います。

日では人生そのものが面白くありません。毎日の仕事の中に楽しさを見つけた姿勢と共に、一日二十四時間、寝ているときでも楽しんでしまおう姿勢も大切ですね。人生八十年の時代とはいえ、たった八十年しかないのです。若い時代はあつという間に過ぎていきます。仕事では「忍耐」も必要です。でも、仕事以外にもチャレ

「相手を知れば百戦危うからず」 私が就職活動で力を入れていたことは、情報を集めることと、その集めた情報について考えること二つでした。なぜなら、この二つをしっかりとしていれば、おのずと相手企業に対して、どのようなアクションを取ればよいのかがわかってくるからです。

一つ目の情報集めですが、相手の企業が欲している人材はどういうものか、ということは当然のことながら、その企業の歴史、社長の人柄、社員の人たちの雰囲気、大学のOBがどの程度活躍しているのかなど、とにかくありとあらゆるものを集めました。これらの情報は、どうすれば相手企業の気を引くことができるかを知るのに大変役に立ちました。

ただ、これらの集めたデータを、面接やテストのときにならべて答えたのでは、企業は私のことなど見てくれなかったと思います。そこで私は、これらの情報を元に一人一倍多くのことを考えました。情報は情報でしかありません、しかし、その情報を自分のものとして理解し、新たな考えへと進化させ、それを自分のものにしてできれば、これは大きな力になります。実際、「情報収集→考える」というとてもシンプルな方法はうまくいきました。

行き当たりばつたりの就職活動は決してうまくいきません。スーツを着て活動している以外の時に、いかに相手について知り、考えているかが、成功への別れ道になっていくと私は思いました。

「マニュアルに縛られないこと」



情報社会政策学科4年 大坪祐輔

私の場合は、男声合唱団の活動を通して得た内容や、「会計職」を務めた経験から自己PRを行い、信用金庫で働くことを志望していました。もちろん、話す内容は自分なりに考えたつもりでした。

しかし、いつの間にか面接では、履歴書に書いた内容をまる暗記したものを答えてしまったり、業界本に書いてあることをそのまま言ったりしていました。当然結果は、不合格でした。そんな折、キャリアセンターで模擬面接を受けて、わかったのが「オーソドックスな内容で、面白くない。」ということでした。そこで、キャリアセンターの方に相談のついでに、再度自己分析を試みました。

4年間の大学生活から自己PRを無理矢理探したのではなく、それまでの22年の人生で共通しているものという視点から、改めて自己PRを探しました。

私の場合は、「努力による自己成長」というテーマで自己PRを見直し、小学生の頃に覚えたコツコツとするというものから、大学生になってから男声合唱で努力したこと結び付けることで、視点を見直しました。

そのおかげで、無事就職活動を終え、第一志望の信用金庫から内定を頂くことができました。



法学部 中村拓弥

4月から、銀行のFPとして活動することになりました。FPはお客様の人生設計をヒアリングし、お客様に合わせた資格運用プランを考える仕事です。ところで、私の内定先は金融業界ではあるのですが、実は活動業界は金融に限定的なものではありませんでした。不動産、IT、小売、人材や運営・組織コンサルなど忙しい就職活動をしていました。

というのも、私は自分のやりたいことを実現できる業界は一つではないように考えたからです。大学のゼミサークル活動から、「世の中人が将来を考えるお手伝いを、専門職の立場からサポートすること」が、私のやりたい仕事でした。

ただ、私も昨今の頃は、やりたいことがまだ言葉に出しては言えず、「志望理由」が頭の中のブラックボックスに入った状態でした。ですから、毎日選考に参加して面接で叱られながら、自分の社会貢献のスタイルや働いてみたいと思った職業について必死で調べていました。

その「やりたいこと」がはっきり説明できるようになったのは、人事面談の他に、内定者の先輩方、そして就活生同士の交流というプロセスがあったからです。自分の志望を表現してみたり、またそれを評価してもらう人間関係を、就職活動を通してつくることができた結果として、切磋琢磨の成長ができたと思っています。

だからこそ、いま就職活動をされている方には、とにかく志望先で働いている方や就活生同士で接点を持って、自分の志望を確かめてほしいと思います。就活生の皆さんが本当にやりたいことができる進路の発見ができることを祈っております。



経営学部長 久保泰介

私が就職活動で力を入れていたことは、情報を集めることと、その集めた情報について考えること二つでした。なぜなら、この二つをしっかりとしていれば、おのずと相手企業に対して、どのようなアクションを取ればよいのかがわかってくるからです。

一つ目の情報集めですが、相手の企業が欲している人材はどういうものか、ということは当然のことながら、その企業の歴史、社長の人柄、社員の人たちの雰囲気、大学のOBがどの程度活躍しているのかなど、とにかくありとあらゆるものを集めました。これらの情報は、どうすれば相手企業の気を引くことができるかを知るのに大変役に立ちました。

ただ、これらの集めたデータを、面接やテストのときにならべて答えたのでは、企業は私のことなど見てくれなかったと思います。そこで私は、これらの情報を元に一人一倍多くのことを考えました。情報は情報でしかありません、しかし、その情報を自分のものとして理解し、新たな考えへと進化させ、それを自分のものにしてできれば、これは大きな力になります。実際、「情報収集→考える」というとてもシンプルな方法はうまくいきました。

行き当たりばつたりの就職活動は決してうまくいきません。スーツを着て活動している以外の時に、いかに相手について知り、考えているかが、成功への別れ道になっていくと私は思いました。

就職体験記

就職体験記

名誉教授称号授与



文学部客員教授
古沢宏輔



商学部客員教授
立花得雄



商学部教授・商学部長
亀山洋一郎



教養部客員教授
黒部通善

本学教授会は、平成十九年三月三十一日付で定年退職を迎えられる、古沢宏輔文学部客員教授他三名に、四月一日付で名誉教授の称号授与を決定した。

昭和三十四年早稲田大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了、昭和四十四年本学一般教養部専任講師として赴任、昭和四十九年教養部助教、昭和五十七年同教授、昭和六十一年に文学部国際文化学科に移られ今日に至るまで、長年にわたり本学の英語および英語学教育研究活動を精力的に推進された。また昭和五十七年から昭和五十九年にかけて、三回にわたり本学夏期海外語学研修(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)の団長をつとめられ、新設の国際文化学科では創設時から、その発展のために尽力されるなど、本学のために多大な貢献をされた。学外では、大英英語教育学会評議員、日本英語音声学会副会長などをつとめられた。

早稲田大学大学院商学研究科博士課程を昭和三十七年単位取得退学の後、商学部専任講師に着任。昭和四十年に助教、昭和四十六年に教授に昇任された。その後、昭和四十八年に商学部教務主任、昭和五十年から商学部長を歴任。また、平成元年に商学研究科主任、その後七年間商学研究科長の重職も全うされ、実に四十五年もの長きにわたり本学の発展に貢献された。専門分野は会計学で、日本会計研究学会をはじめ多くの関連学会で活躍。昭和六十年には「企業維持計算論」で早稲田大学から商学博士を授与された。先生の研究業績は、著書「訳書八編」、学術論文等本学以上にのぼり、学出身税理士以上の多くが先生の教えを受けたことも忘れることができない。

昭和四十四年東京医科歯科大学大学院歯学研究科を終了後、カナダ、マニトバ大学で八年間研修され、昭和五十二年一月本学歯学部病理学講座の助教に赴任、昭和五十四年一月に同講座主任教授及び大学院教授に昇任されました。研究面では、口腔粘膜、歯周組織、歯根、顎関節などに関する実験病理学的研究に取り組み優れた成果を挙げられました。また、学内では、口腔先端科学研究所長、歯学部長、大学院歯学研究科長等の要職を歴任、対外的には国際学会を含む多くの専門学会の理事、評議員、編集委員長等を務められ、さらに、厚生労働省の歯科医師国家試験委員、医療関係者審議会専門委員、文部科学省の学術審議専門委員などの多くの公職も歴任されました。

昭和四十一年名古屋大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程単位取得満期退学後、愛知医科大学教授を経て、昭和五十七年本学教養部教授として赴任、平成十年から二年間教養部長。平成十三年から五年間図書館情報センター長など要職を歴任された。専門は日本仏伝文学の研究であり、その業績は著書「説話の生成と変容に関する研究」及び「日本仏伝文学の研究」として結実し、これらの一連の研究に対し、平成四年に名古屋大学より、論文による博士(文学)の学位が授与されました。日本仏伝文学とは、日本における仏伝物語を総合するひとつのジャンルであり、黒部先生はこのジャンルの確立に大きな貢献をされました。

歯科放射線学講座内藤宗孝助教授「歯科インプラントX線画像用特殊レジ」を開発・商品化



歯学部歯科放射線学講座内藤宗孝助教授(併任)

附属病院口腔インプラント外来科長)は、長年にわたるインプラント画像診断技術に基づく独自の研究成果を、山八歯材工業株式会社(蒲郡市)と共同で、「スキャニングレジCT3000」というインプラントX線画像用レジを商品化した。商品化したスキャニングレジは、インプラント治療に必要な不可欠なレジで、コンピュータ断層撮影(CT)上、金属アーチファクトの影響を排し、エナメル質と同等のエックス線透過性を有する特徴がある。このため、明瞭な歯冠形態が表示できる特性を持つ本レジは国内、海外ともに他に類をみない製品であり、発売以来インプラント関係者から好評を博している。本商品の開発は同助教授が2003年11月から1年間留学したスイス連邦ベルン大学歯学部口腔外科学講座口腔放射線部門カール・デューラ主任の元での研究成果が基礎になっている。今回、このようなレジの開発・製品化が評価され、「Who'sWHO in the World[®]2007年版」に推薦、掲載された。「Who'sWHO in the World[®]」は、政治、経済、医療、理工学、など様々な分野で、国際的に活躍する人を紹介する人物事典で今年で24版を重ねる書籍である。同助教授は今回のレジ開発のほか口腔インプラント治療の画像診断や歯槽骨吸収のコンピュータ支援による自動画像診断研究に従事し、関係論文には、Measurement of mandibles using micro-focus X-ray computerized tomography and compact computerized tomography for dental use. International Journal of Oral and Maxillofacial Implants, 19:239-246, 2004. Three-dimensional display with quantitative analysis in alveolar bone resorption using cone-beam computerized tomography for dental use: A preliminary study. International Journal of Periodontics & Restorative Dentistry, 26: 607-612, 2006. などがあり国際的に高い評価を得ている。本学のホープとして同助教授の益々の活躍を期待したい。



学位



田中泰賢

本学教養部教授田中泰賢氏に本学から平成十九年二月八日付で博士(文学)の学位が授与された。同氏は昭和二十一年生まれ。広島大学大学院文学研究科修士課程修了。学位論文は「Buddhism in Some American Poets Dickinson, Williams, Stevens and Snyder」。本論文の研究の目的はアメリカ詩が仏教からどのような影響を受けているかを明らかにして、アメリカ文学史におけるアメリカ詩の位置づけに貢献できる。またアメリカ文化と東洋文化の接合がどのようになされているかをこの研究の助けになり、更に仏教及び仏教に関する文化がアメリカにどのように入っているかを記録することによってアメリカ社会における仏教の役割を明確にすることができ、本論

歯学部附属病院病棟師長の水野敏子看護師に日本人看護師として初めてベトナム社会主義国児童保護育成勲章が贈呈される



水野敏子

小出学長の御厚情を得、昨年12月22日より12月29日に行いました。第35回ベトナム社会主義共和国口蓋裂医療援助を事故なく終了することができましたことをここにご報告申し上げます。また今回の医療援助におきましては、10年以上にわたるこのプロジェクトの看護師として中心的な役割を果たしてきた貴大学歯学部附属病院病棟師長の水野敏子看護師が、日本人看護師として初めてベトナム社会主義国児童保護育成勲章を贈呈されましたことを合わせて御報告申し上げます。一般的には、医師のみがこの種の勲章を授与するところを水野敏子看護師の長年の努力が評価されたものです。水野看護師は、ホスピスケアでは東海地区の草分け的存在でもあり、藤田保健衛生大学七葉サナトリウムの開設、愛知国際病院ホスピス病棟の開設などを行い、当地方において病める方の看護に尽力されてこられました。その間毎年ベトナム社会主義共和国での口蓋裂医療援助に参加すると共に、国内での講演会などを通じて私共の活動をサポートして頂いており、特に七葉サナトリウムで看取った患者である関良二様が水野様の看護に深く感謝されて、その遺言による寄附の下、現地に病院を建てるなど多くの尽力をされました。また、現在でも胎児心音ドブラー等現地で必要な器材について、個人での寄贈を続けております。貴大学附属病院水野敏子病棟師長の多大な御尽力に衷心より御礼申し上げます。益々の活躍を期待したい。

特定非営利活動法人日本口蓋裂協会 理事長 川口文夫

ボンド大学 (BUEN) 語学研修レポート

経営学部国際経営学科 杉原大介

今回の研修に参加して自分はいろんな面で成長できたと思う。三週間のホームステイで日本での生活がどれだけ自由のないかを実感し、忍耐力和協調性などを養うことができた。現地の大学での英語の授業は自分のレベルにあったクラスに振り分けられるので勉強しやすかった。毎週土曜日に愛知学院のみならず行くアクティビティや最後の三日間のシドニー観光は本当に楽しいものだった。三週間という期間は英語を学ぶには短すぎる。しかし、違う国の人々と会話できる英語の素晴らしさを感じ、英語に興味をもてるという面で十分に意味のあることだと思う。この研修を楽しく充実して過ごせたのは共に多くの時間を過ご



